

談論

これまで経験したさまざまな場を通り、感じて「スピーチ」への想いを一つ一つ試みたい。

必要にせまられ、慣用句、熟語、ことばそのものを研究してきた。話し手もいろいろだが、正式な場面でも原稿などを「基本」と見ずに、話したい項を「基本」と目のみを頭に置いて自然体でやる人は少なくない。それでも巧みにまとめている人は、さぞ口頭から

周囲への気遣い、場意味は、能力があるシヨンは10分まで、よほどよい。総じて、の雰囲気、時間軸などに不足しているのそれを越えようと聴衆 自身の話術に苦手意どの分析がなされては「役」そのものでは話を聞かなくな 識をもつ人は、事前

また、一方では数字 スピーチで自分をへは認知機能の研究でい。よって聴衆のう項目をもらさず正確に「力不足」とすれものに脳は注意を払 ーチに自信をもつ人

スピーチあれこれ



村山 和雄

通常、ス

はすっきりスピーチでの3分は人チでおきる聴衆の拍間が緊張できる限度 手には二種類の意味している。間が緊張できる限度 手には二種類の意味

(村山鋼材社長)

談論

バブル崩壊、リーマンショックそして未曾有の自然災害…危機はとつぜんやっ

てくる。危機はなぜおこるのか。危機は現代社

会において、もはや

異常なことでも稀な

ことでもない。我々

の生活において避け

ることができないも

のである。しかし、

危機管理の本質を理

解することで、その

衝撃は軽減される。

危機管理には二つ

の手法がある。

ひとつは「リスク

・マネージメント」。

主として地震、水害

などの自然災害に対

処するもの。発生自

体は避けられないが

予測して被害を最小限

におさえる

前の対策によって避

けることができる。

企業や組織体が危

機におちいりやすい

とって危機につなが

る脅威とはどのよう

なものなのか。景気

低迷、不祥事、不法

行為、情報

漏えい、設

備の損傷、

テロ、内部

分裂、労使

関係などがある。も

はなく、必要なコス

トとしてみていくも

めても深刻

ちろん、すべての脅

威に備えることは不

可能である。大事な

点は、その企業にお

けるべきことのない危

機の対応を忘れない

こと。準備

は、こうして危機へ

の対応を忘れない

こと。準備

は、こうして危機へ

の対応を忘れない

「危機管理」



村山 和雄

「一人は何かが
時に一人は何かが
おこるまで何もやら
ない」とも。危機管
理はやるかどうかで
はなく、必要なコス
トとしてみていくも
めても深刻

ちろん、すべての脅
威に備えることは不
可能である。大事な
点は、その企業にお
けるべきことのない危
機の対応を忘れない

こと。準備
は、こうして危機へ
の対応を忘れない

こと。準備
は、こうして危機へ
の対応を忘れない

(村山鋼材社長)

2013年 5月8日

鉄鋼新聞

談論

心はどこにあるのか、心は何によって変化するのか。

今はまさに心の時代とも言われている。

代とも言われている。そもそも心とは何か。それを取り出す、プレッ

して観察することはできない。やさしい心をもっているとい

ってもその心を見たわけではない。また、心そのものを鍛える

ことはできない。心人の期待する行動より

も自分の信念に従って行動すること

は、意識、思いやり、

あこがれ、誠意、喜とも言われる。び、悲しみ、嫉妬、怒り、遺伝子、誇り、傲慢とさまざま。心理学では「心は

脳の働きである」とし、頭の中にあると

残した言葉である。

もので、ゴルフが心身の二元論の中で、

「打つ前に結果は人の思考や判断に

確的機能が深くかかわっていることを唱え

ている。「健全なる精神は健全なる身体

に宿る」の格言のとおり、まずは健康体

は何か。プレー中の開き直りが好

よつた。

結果へつな

がることが、人間の気力、根

性、集中力、決断力、

協調性、責任感がめ

ばえ人間形成につながる。

「心と体」は密接につながっている。

（村山鋼材社長）



村山 和雄

「心と体」

果を左右するという

ルネ・デカルトは、